



## 鷺宮卓話

### “教え子”に支えられる幸せ

太田敬雄

8月末に日本の高校野球の選手たちが「Japan」のマークを外して韓国に赴いたニュースを見て、私はFacebookに次のような投稿をした：

「Japan」の文字を外して韓国に行った若者たち。そんな事をさせた指導者たち。恥ずかしいです！

（略）なぜ、そんな動きだけを報道するのでしょうか！？8月後半、国際比較文化研究所の大学生たちは1週間釜山に行って、韓国の学生達と日本語での交流をしてきました。町に出る時も、韓国の学生達と日本語で話し合いながらの交流です。そこで友情を育み、つながりを深めて、みんな大満足で帰国しました。（略）別れを惜しみながら。

メディアにはせめてこちらの動きも同じように伝えて貰いたいものです。そこに注目することの出来るメディアは日本には無いのでしょうか？悲しくなります。」

この投稿に第1回の多文化交流in群馬(2002年)の参加者から次のようなコメントをいただいた。

「確かにあの夏の交流は時間が経過した今でもことあるごとに思い出されます。当時も中国・韓国のメンバーとバイバイするときは、自然と涙が出てきて、短い間でもちゃんとコミュニケーションできたいい思い出です。

センセーショナルな内容（略）ばかりを取り上げるメディアも（略）罪は大きいと思います☹」

「先生がいろんな想いと様々な人脈を駆使しながら

ら尽力いただいた国際交流が、後輩（直接の後輩ではないですが）にきちんとつながっているのを見るとこちらもめっちゃくちゃうれしくなります。先生もお体ご自愛いただき、これからも一人でも多くの国際人を育てるきっかけを与えてやってください。」

投稿者は、当時高知大学の学生だった山本貴彦氏。現在40歳前でIT会社に勤めている。仕事は多文化交流とは関係ないけれども、個人的に地域の交流活動に取り組んでいるとの事。



山本貴彦氏

山本氏は続ける。「個人的に特に今回の過熱する報道や過度なまでのメディアの取り上げ方には疑問だったのと、市民レベルではほんとにいいヤツばかりが多いので、余計に（略）気になります^^；先生が提議されているように、若い人間たちこそ同じ時代を生きる異文化に触れあったその場の感覚とか感情、そういうフラットな感覚を持ってほしいなと思います（以下略）。」

『-相互理解に基づいた豊かで平和な地球を創るために-』と取り組んできた多文化交流。いま、第1回の多文化交流卒業生から、こうして背中を押して貰える幸せに浸っています。

スマホの情報を手に、新幹線や航空機でひたすら先に向かって走り抜けようとする時代に、地面を踏みしめながら歩むような活動の中で築かれる人と人とのつながりを、大事に育て続けていこうと決意を新たにしています。

## 家族多文化交流 in Malang, 2019

8月2日～8月7日（8月1日日本発、8日帰国）

今回は IIMS マラン（国際比較文化研究所マラン支部）主催の現地集合プログラムとして実施し、日本在住のスタッフとして太田敬雄が参加しました。今回の参加は8家族19名の大所帯となりました。その内、子供は小学校3年生から中学校2年生までの8名。家族単位での行動には、各家族にサポーターの学生が付き、通訳も務めると言う贅沢なプログラムでした。

ホームステイや Brawijaya Smart School の小学校、中学校訪問、現地の日本人家族との交流会などに加えて、バティック体験／遺跡巡り／農村体験から希望のコースを選択出来たり、Malang 市に隣接する Batu 市の動物園／自然冒険もまた希望のコースを選べる、実に豊かなプログラムでした。



### <参加者の感想から>

○マランに行ったときに感じたことは「いかに世界が大きく、自分が小さい」ということ（略）。そこに住む学生やすべての人達が何かのために「情熱」を持って生きている。インドネシアの人達はとても輝いており、とてもカッコよく、素晴らしい人達です。本当の意味での「人との繋がり」を大切にしている人達なのだとも思いました。

○子どもは遺跡めぐりや、ホームステイなど、とても楽しく来年も行きたいと話しています。私はインドネシアのスタッフや、マコさん、現地の日本の方々の手厚いサポートに感謝しています。お陰で、とても楽しい時間を子供と過ごせました。

○現地に着いて習慣、文化など分からないままの2日目のホームステイもバッチリなタイミング。ホストファミリーにもとても良くしていただきました。子ども達は早く Malang に戻りたいと言っています。

帰国してからも今回参加された方々とも LINE やメールなど、関わりがある事をとても嬉しく思っています。Malang で経験した事を次に繋げて活かして行きたいです。

（お詫び：紙面の都合から一部修正しています。その結果、言葉不足になっている所も有るかと思われます。）

## 親子多文化交流 in 安中 2019

家族多文化交流 in Malang,2019 を終えて約一か月後、今度はインドネシアの小中学生をマランから来てもらい、文化体験や色々な交流経験を積んで貰うプログラムを9月5日～9日に安中で実施しました。来日したのは Brawijaya Smart School の小中学生16名と先生方4名。

5日午前2時前に羽田に到着した一行は、スタッフ代表と通訳スタッフの大学生5名に迎えられ、築地やスカイツリーなどを回って安中の学習の森に到着したのはお昼頃。



翌日は鉄道文化村、市内の原市小学校・第二中学校訪問、100円ショップに高崎市役所展望台と忙しい一日になりました。



Brawijaya Smart School から寄せられた要望が学校の給食と掃除を子ども達に体験させることでした。日本文化の中で育った者にとっては当たり前前の事が、異なる文化背景を持つ人にとっては驚きであったり、新鮮だったりします。

他の多文化交流でも言えることですが、特にここでは多くの方々のお世話になりました。企画・運営スタッフ・通訳スタッフの学生達・原市小学校・安中市立第二中学校・ホストファミリー・まなばる家族と先生方・食事ボランティアの皆さんのご協力で、素晴らしい活動になりました。スタッフ代表がご家族の不幸で2日目で離脱する出来事乗り越え、9日には台風で成田空港がほぼ閉鎖状態になる中で予定のフライトに乗れるという奇跡をも引き起こしました。

空港まで BSS グループを送ったスタッフ6名は、結局その夜の帰宅は叶わず、空港で一夜を明かしました。それでもなお「このプログラムに関われて良かった」「楽しかった」とすべてを貴重な体験と捉えてくれています。感謝です！

# 『多文化交流 in ぐんま 2019 夏』と『多文化交流 in 韓国 プサン 2019』

夏は研究所主催の多文化ラッシュ！（学生主体のもの他に、家族多文化や親子多文化など）大学生主体の「in ぐんま」と「in 韓国 プサン」それぞれの学生スタッフ代表の感想を紹介します♪

## ～多文化交流 in ぐんま 2019 夏～ 8月10日～12日 @安中市 学習の森



代表：<sup>さかた</sup>坂田くるみ  
(高崎健康福祉大学 3年)

代表のちゃんくるです。これまで参加者、スタッフとして交互に参加してきました。

1度目のスタッフは参加者の様に楽しむことが出来ず、せっかく準備してきたのに悔しいという思いが残りました。そこで、2回目となる今回はスタッフが参加者同様思い切り楽しめるイベント作りを心がけました。そのためにスタッフ間の仲を深めようとミーティング毎に席替えをしたり、意見を言いやすい雰囲気作りに頭を悩ませました。

実際にイベントを終えて、誰よりもわたし自身が楽しめた！と言えます！

スタッフとして周りを見つつ参加者の1人として全力で企画を盛り上げることができました。

自分よりも経験の長いスタッフに助けをもらい、勇気を持って決断してくれた新スタッフが新鮮な雰囲気を作ってくれたおかげで、本当に満足のいくイベントに完成できました。

このイベントの終わりが、これからの参加者全員の仲が深まる”始まり”です。

これからも多文化交流の素晴らしさを広めていきたいです！



## ～多文化交流 in 韓国 プサン 2019～ 8月21日～27日 @韓国釜山市と近郊



引率：<sup>みやざきまほ</sup>宮崎真帆  
(群馬県立女子大学 3年)

引率を務めました、ざっきーです。まず、結論から言うと、とっても楽しかったです！

今回この多文化交流 in 韓国プサン 2019 を実行するにあたり、参加者や我々にとっては国同士の関係の不安定さが一番大きな壁でした。初海外の参加者が過半数を占めていたこともあり、直前までキャンセルを迷う参加者もいましたが、最終的には全員で韓国へ行くことができました。全日程を通して私は、私も含めた参加者全員が心の底から楽しめたと確信しています。

多文化交流 in 韓国プサンに初参加の参加者には多文化プサンの楽しさを知ってもらうことや、韓国で友達の輪を広げてもらうことができ、とても嬉しいです。これからもこの素敵な多文化交流が続くことを願っています。



## まなぼるキッズが日帰りで合流！

### ～タフンカ 2019 夏～ 8月11日

多文化交流 in ぐんま には毎回、まなぼるキッズも日帰りで参加しています！ベテランキッズ2人の感想も紹介します★



<sup>いのうえほのか</sup>井上穂歌 (6年生)

私は、低学年のころから多文化交流へ行っています。始めのころはまだ慣れていなくて、ずっと恥ずかしがっていました。私は人見知りだったので、最初はみんなと楽しく交流できるか心配でした。

でも、気がつけば恥ずかしさも忘れて、みんなと一緒に笑っている自分がいました。ご飯をつくったり、チームに分かれて遊んだり…。ふり返れば、とても楽しい思い出がどんどんよみがえります。

私は、多文化交流を通して、日本人だけではなく、他の国の人たちと協力する楽しさを学びました。外国の人たちと交流する機会はめったになかったので、とてもいい経験になりました。

<sup>むらいだあおい</sup>村井田碧生 (6年生)



この間、私は、数回目の多文化交流へ行きました。とても楽しみにしていました。何回か来たことがあるので、慣れてはいましたが、やはり、初めて会う人達には、少しきんちょうしてしまいました。

しかし、向こうから話しかけてきてくれて、楽しく話をすることができました。自己紹介が終わり、私が少し苦手な王様ドッジボールの時は、自分の所にボールが来なくても、みんなと楽しくできました。三色だんご作りでは、まぜたり、丸めたりして、面白かったです。時々、心配したところもありましたが、美味しくできました。私は、今回の多文化交流を経験して、とても楽しかったです。初めて会う人だったり、国がちがっていても、話をしたり、遊んだりすれば、楽しくなるんだ、と、改めて思いました。良い経験でした。

## 多文化交流について

太田敬雄

この夏の多文化交流では考えさせられることが幾つも有りました。その一つが日韓関係の悪化です。「**多文化交流 in 韓国 プサン**」は世間的には中止に追い込まれても仕方ないような状況に有りました。そのような状況の中で迷うことなく実施に踏み切れ、充実したプログラムを実施できたのは、10年以上にわたる交流プログラムで築かれていた強い友情と揺るぎない信頼関係に有ります。

多文化交流プログラムは貧困問題や環境問題、難民問題などの問題解決を目指すような「華々しい」活動では有りません。多文化交流は、どんな問題に対応する場面でもベースとなる人と人の信頼関係を構築する友達作りの活動です。それが有って初めて本当に望まれる問題解決活動も可能になるというものです。ノーベル賞を受賞した複数の研究者が「基礎研究」を支えることの大事さを訴えています。科学の分野における「基礎研究」の要素に匹敵するのが多文化交流であると私は考えています。

## 「ワンコイン寄付」

☆クレジットカードにて毎月 500 円の寄付(自動引き落とし)も選択可能になりました。何人もの方がご利用下さっています。

「一度にまとまった額の振込みは大変だけど、月 500 円なら…」そんな気持ちでご検討いただけたら嬉しいです！(自動引き落としは、いつでも停止可能です。)

☆会費や一般のご寄付もカード振込が可能です。ぜひご利用ください。

会費のお支払い・ご寄付は「**クレジットカード**」または「**郵便振替**」にて受け付けております。

### 【クレジットカード決済の手続きはコチラ】



左記 QR コード、もしくは下記 URL からアクセスして頂き手続き・ご登録ください。  
アクセス先のページから「会費の支払い」と「ご寄付」に分かれておりますので、それぞれのページへ進んで頂き、手続きをお願い致します。

(<http://www8.wind.ne.jp/mthc/iims-cardannai>)

### 【郵便振替はコチラ】

下記口座まで直接お振込み下さい。

●加入者名：国際比較文化研究所

●口座番号：(普通) 00510-0-61974

※ゆうちょ銀行から振込可能な口座です。

※通信欄に「会費」または「寄付」とご記入ください。

会費・寄付<敬称略・順不同> (7/1~9/13)、カード振込 (7/1~9/13)

会費並びにご寄付を有難うございます。国際比較文化研究所は今後とも「平和な地球社会の実現」に向けての諸活動に邁進して参ります。

<新入会員> 菅谷晃

<会費> 間庭有美子、増山律子、高山有紀、中島愛、野村誠、菅谷晃、

<寄付> 大宮登、増山律子 (多文化交流)、高山有紀、大澤直子、藤本恵大×2、菅谷晃、宇佐美若奈×2、内野春香×2、片岡謙×2、

編集後記：IIMS にとってはこの夏は一か月少々の内に 4 件の多文化交流を実施するという、嵐のように過ぎ去った夏でした。その間に私も体調を崩しましたし、主要スタッフも突然の不幸に見舞われました。そして 15 号台風の直撃を成田で受けました。それら全てを乗り越えて進んで行く中で、明日に向かって活動を続ける力を蓄える夏でした。(T)

発行 特定非営利活動法人国際比較文化研究所  
事務所：〒379-0124 群馬県安中市鷺宮 3413-3  
電話：027-382-5998 FAX：027-382-6393  
研究所ホームページ：<http://www8.wind.ne.jp/mthc>  
メールアドレス：[totatakao.iims@gmail.com](mailto:totatakao.iims@gmail.com)  
まなぼる：<http://manapal.gunmablog.net/e80854.html>  
メールアドレス：[mail@manapal.jp](mailto:mail@manapal.jp)  
郵便振替口座番号：00510-1-61974